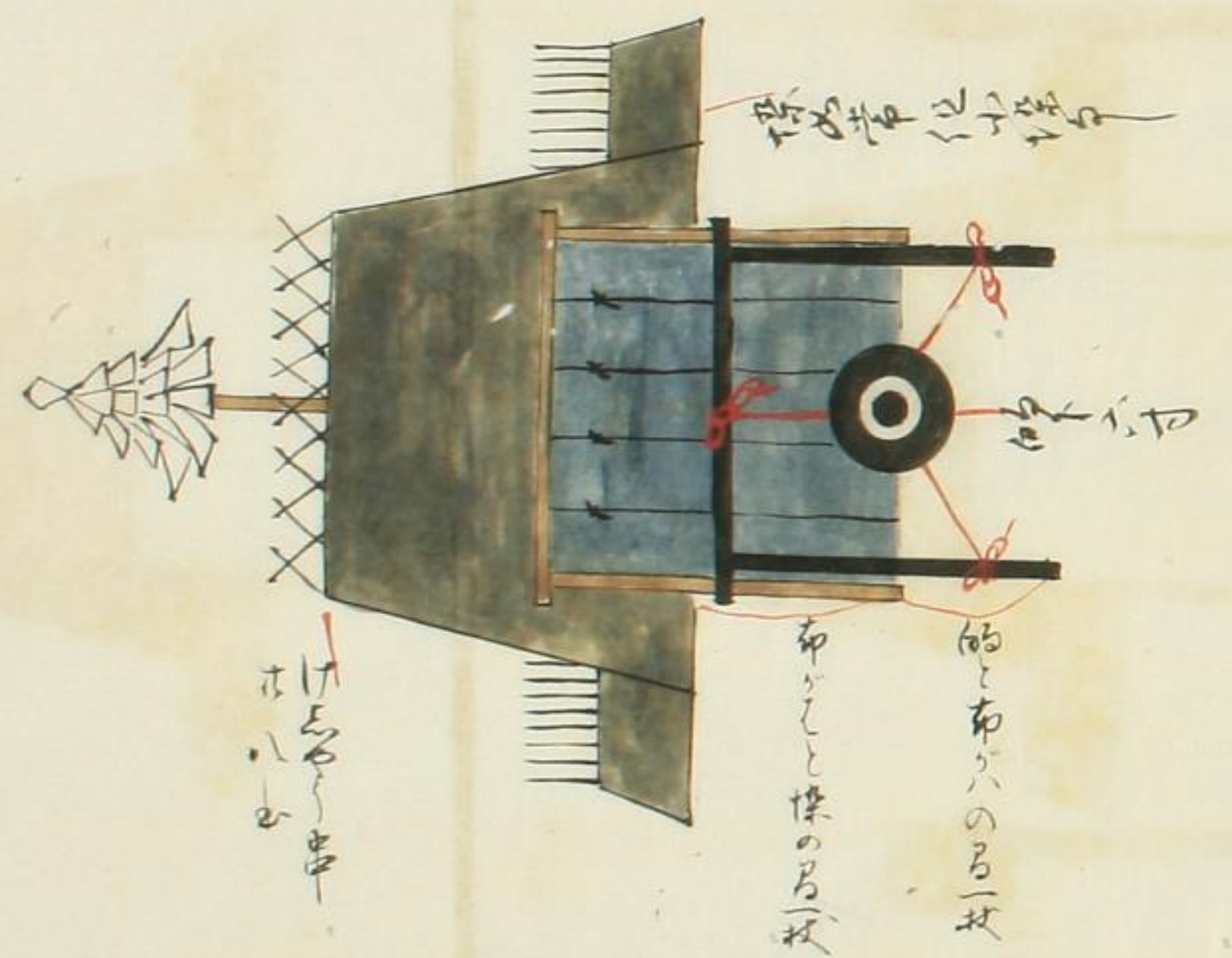
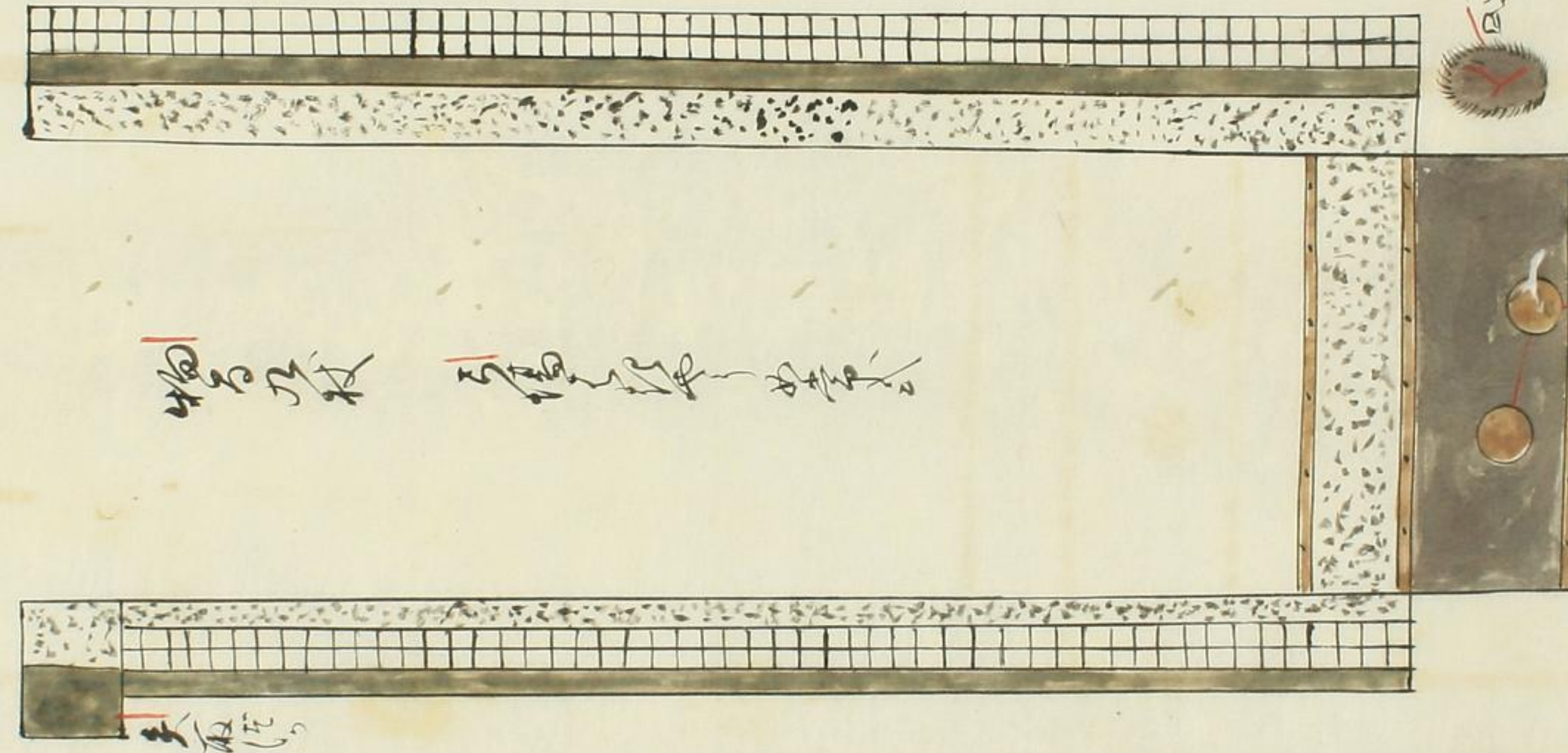


△圓物禮法

△弓場繪巻



一弓場經交なる法家のこと一木の家  
 せられたる桐屋よりなる事屋敷や



△ 圓物禮法

△ 弓場繪

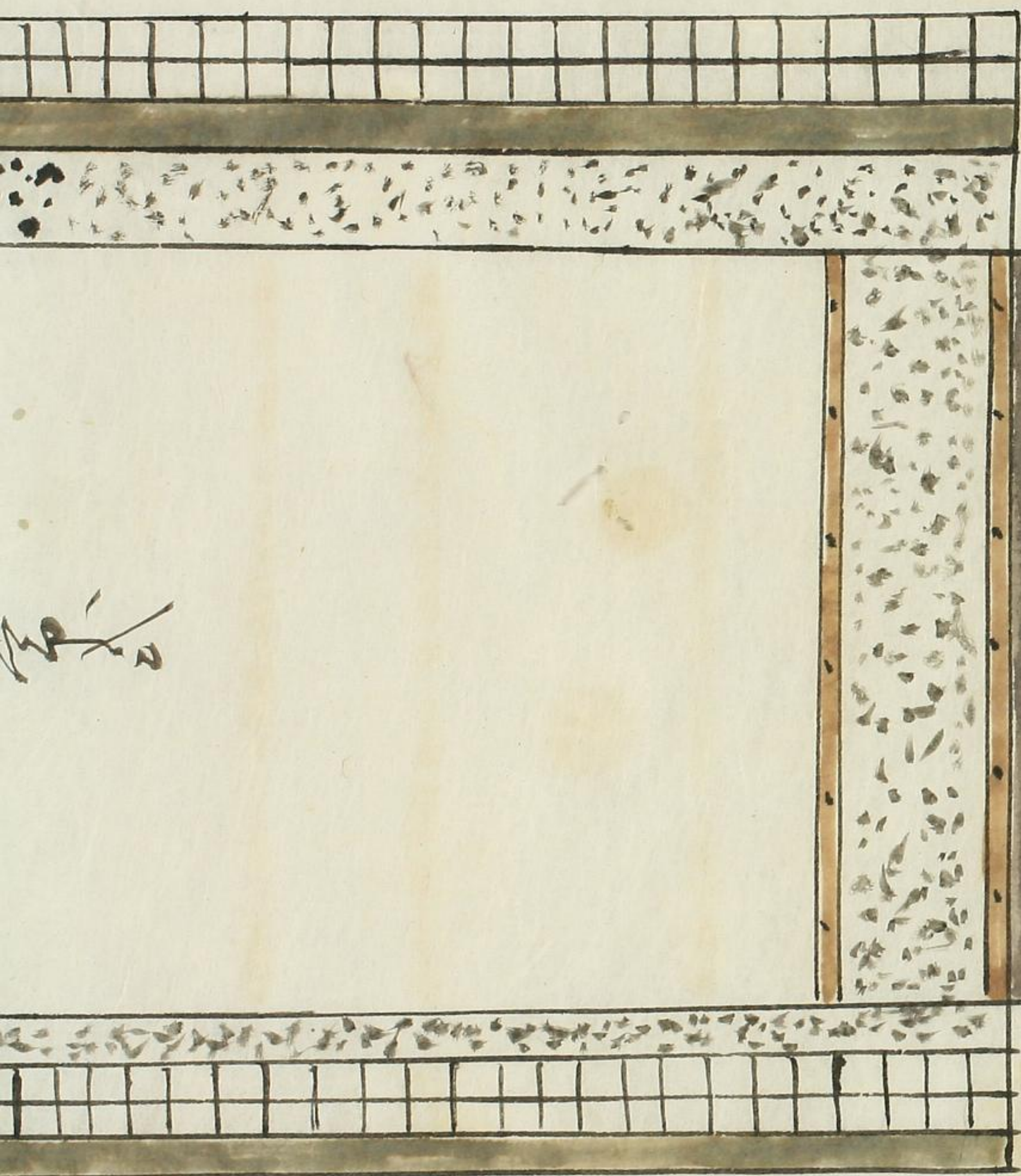


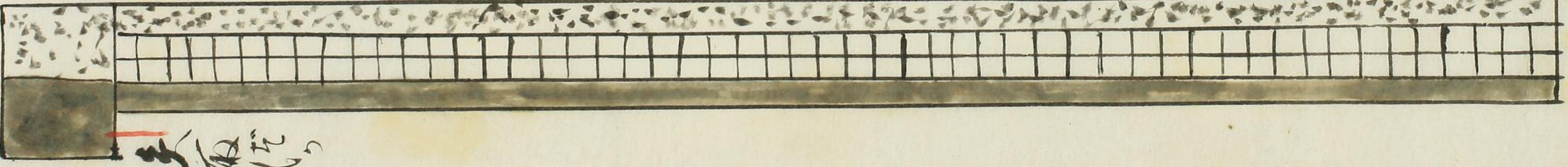
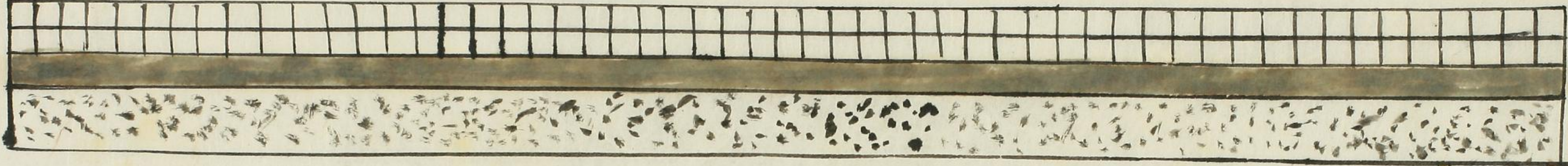
- 一
- 二
- 三
- 四
- 五
- 六
- 七
- 八
- 九
- 十

糸

数

後





物取

取付部

取付部

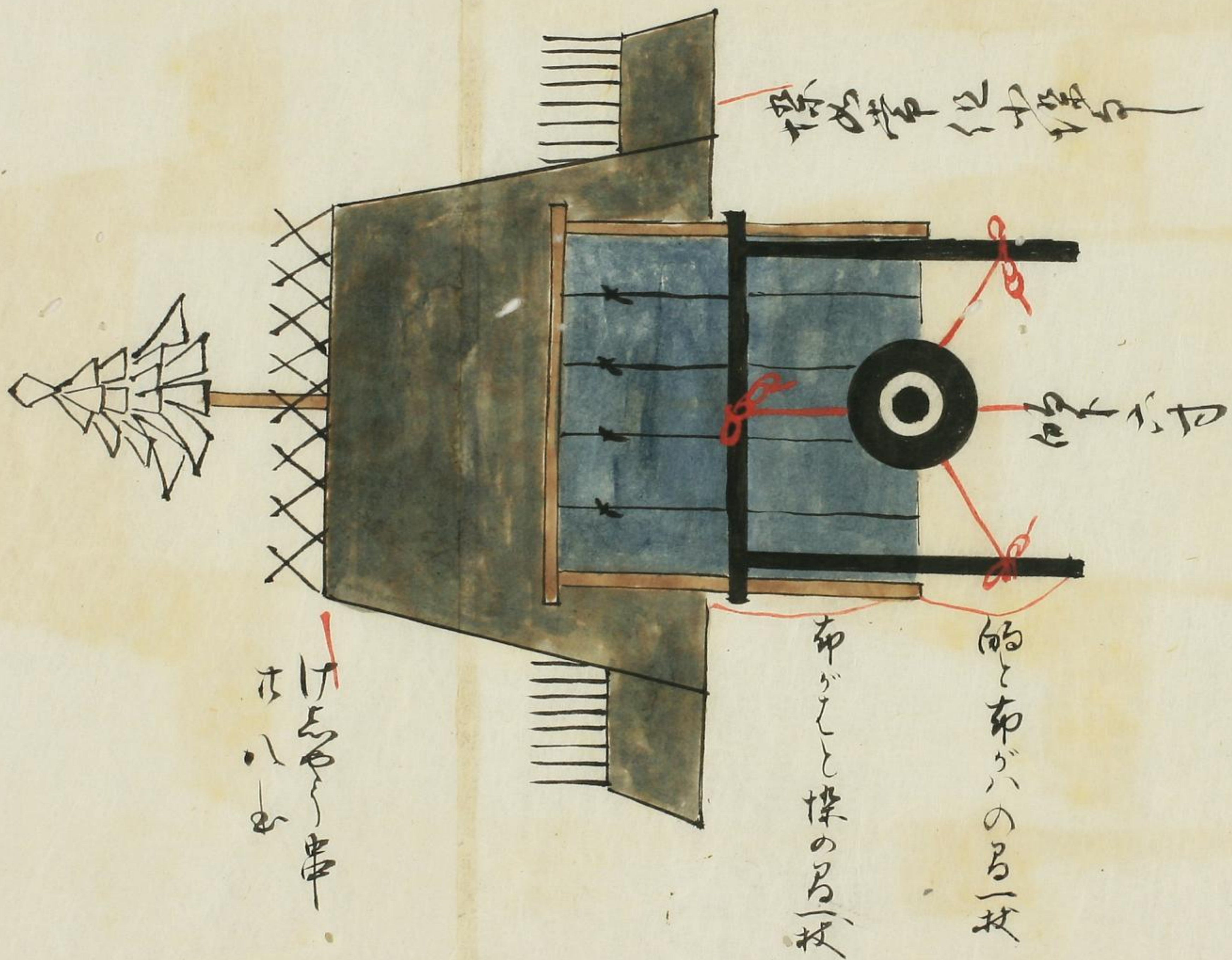
取付部

取付部

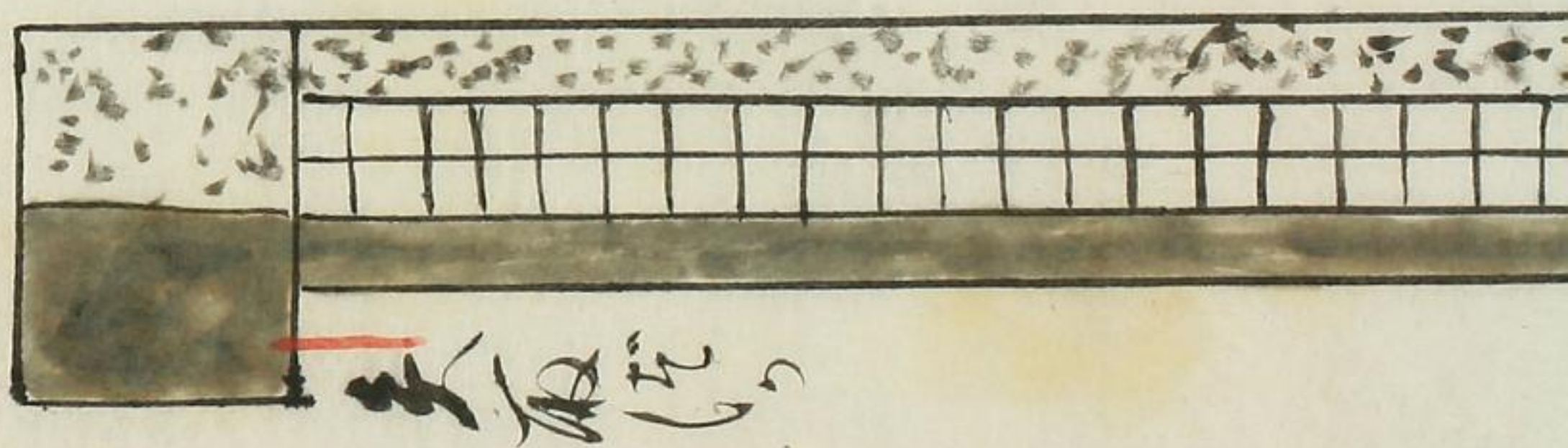
取付部

取付部

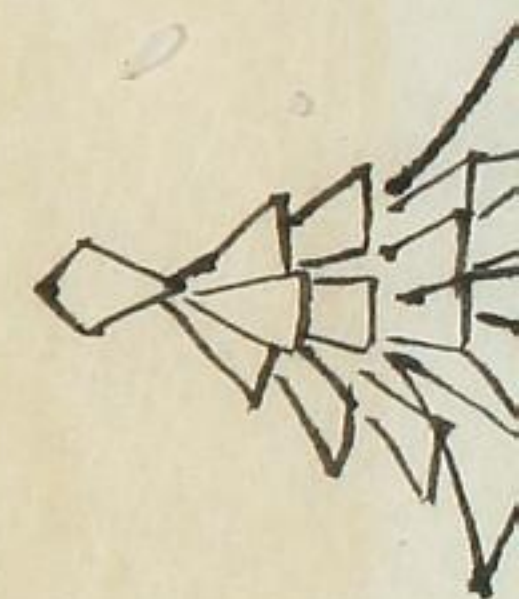
一 弓場 經文 なる 法 案 の こし 一 糸 の 廣 廿  
 廿 一 尺 一 寸 一 分 一 厘 一 毫 一 絲 一 忽 一 微 一 塵 一 沙 一 渺 一 漠 一 莽 一 蒼 一 茫 一 蒼 一 茫 一 蒼 一 茫



矢の目 (Eye of the arrow)  
 的 (Target)



矢の目 (Eye of the arrow)



一 弓場 經文 方 法 等の 一 部 一 部 の 後 半  
 せ び せ び せ び せ び せ び せ び せ び せ び せ び せ び せ び せ び  
 物 と 小 的 場 一 部 一 部 の 後 半 一 部 一 部 の 後 半  
 急 物 弓 場 一 部 一 部 の 後 半 一 部 一 部 の 後 半  
 一 及 物 弓 場 一 部 一 部 の 後 半 一 部 一 部 の 後 半  
 一 及 物 弓 場 一 部 一 部 の 後 半 一 部 一 部 の 後 半  
 一 及 物 弓 場 一 部 一 部 の 後 半 一 部 一 部 の 後 半  
 一 及 物 弓 場 一 部 一 部 の 後 半 一 部 一 部 の 後 半  
 一 及 物 弓 場 一 部 一 部 の 後 半 一 部 一 部 の 後 半

一 的 場 の 一 部 一 部 の 後 半 一 部 一 部 の 後 半  
 二 及 物 弓 場 一 部 一 部 の 後 半 一 部 一 部 の 後 半  
 一 及 物 弓 場 一 部 一 部 の 後 半 一 部 一 部 の 後 半

一 布 及 幅 等 一 部 一 部 の 後 半 一 部 一 部 の 後 半  
 一 及 物 弓 場 一 部 一 部 の 後 半 一 部 一 部 の 後 半  
 一 及 物 弓 場 一 部 一 部 の 後 半 一 部 一 部 の 後 半  
 一 及 物 弓 場 一 部 一 部 の 後 半 一 部 一 部 の 後 半  
 一 及 物 弓 場 一 部 一 部 の 後 半 一 部 一 部 の 後 半  
 一 及 物 弓 場 一 部 一 部 の 後 半 一 部 一 部 の 後 半  
 一 及 物 弓 場 一 部 一 部 の 後 半 一 部 一 部 の 後 半  
 一 及 物 弓 場 一 部 一 部 の 後 半 一 部 一 部 の 後 半  
 一 及 物 弓 場 一 部 一 部 の 後 半 一 部 一 部 の 後 半

右 的 事 的 反 的 的 的 的 的 的 的 的 的 的 的 的 的 的 的 的 的 的  
 一 及 物 弓 場 一 部 一 部 の 後 半 一 部 一 部 の 後 半  
 一 及 物 弓 場 一 部 一 部 の 後 半 一 部 一 部 の 後 半

右の事如左の通り  
日比上ありらぬ申す  
意ありし事あり

一 村の歴史を文書附の真宝やぐらに大徳寺に  
存留せしむる事ありし村又其後おこなふ  
おぼしき事ありし村の略図を寺に下  
行せしむる事ありし事ありし

一 神祇祀節とある返り文は其の神  
の事とあるは云々として其の神  
園をなす定又夫代と振して其の  
事いふ事として其の神の事なり  
也

一 夫の事いふ事ありし事ありし  
て其の事いふ事ありし事ありし

一 村の歴史の事ありし事ありし  
一 夫の事いふ事ありし事ありし  
一 夫の事いふ事ありし事ありし  
一 夫の事いふ事ありし事ありし

一 夫の事いふ事ありし事ありし  
一 夫の事いふ事ありし事ありし

用くは傳

一 夫の事いふ事ありし事ありし



一夫乃其信也中邦に於て是を以て是れと  
沙汰す。此の夫は彼(昔)に於て其の友に  
負ふ所の少後(其)に於て其の友に  
夫(其)の友に於て其の友に於て其の友に  
其の友に於て其の友に於て其の友に

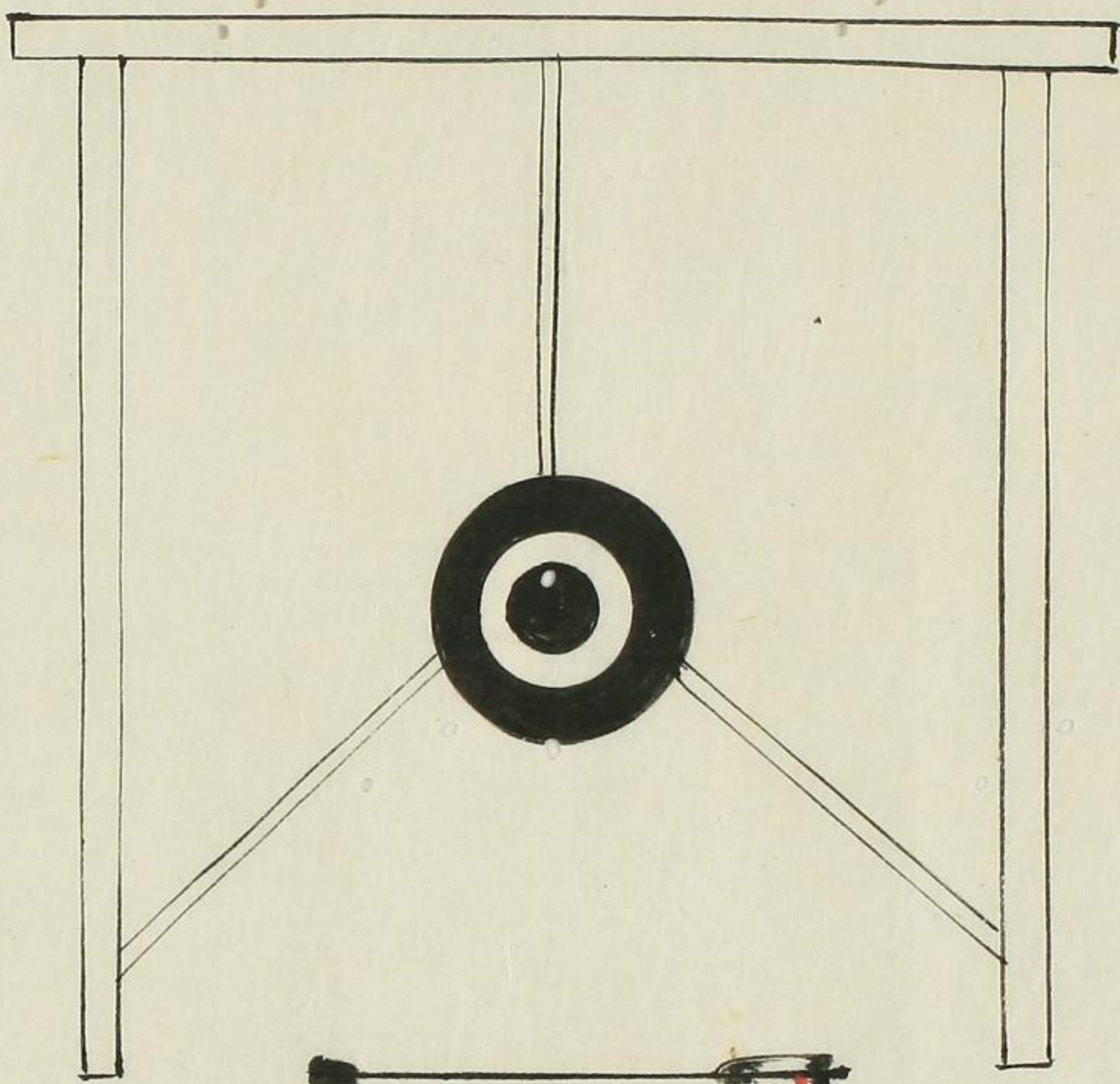
一 夫乃其信也中邦に於て是を以て是れと  
沙汰す。此の夫は彼(昔)に於て其の友に  
負ふ所の少後(其)に於て其の友に  
夫(其)の友に於て其の友に於て其の友に  
其の友に於て其の友に於て其の友に

一 夫乃其信也中邦に於て是を以て是れと  
沙汰す。此の夫は彼(昔)に於て其の友に  
負ふ所の少後(其)に於て其の友に  
夫(其)の友に於て其の友に於て其の友に  
其の友に於て其の友に於て其の友に

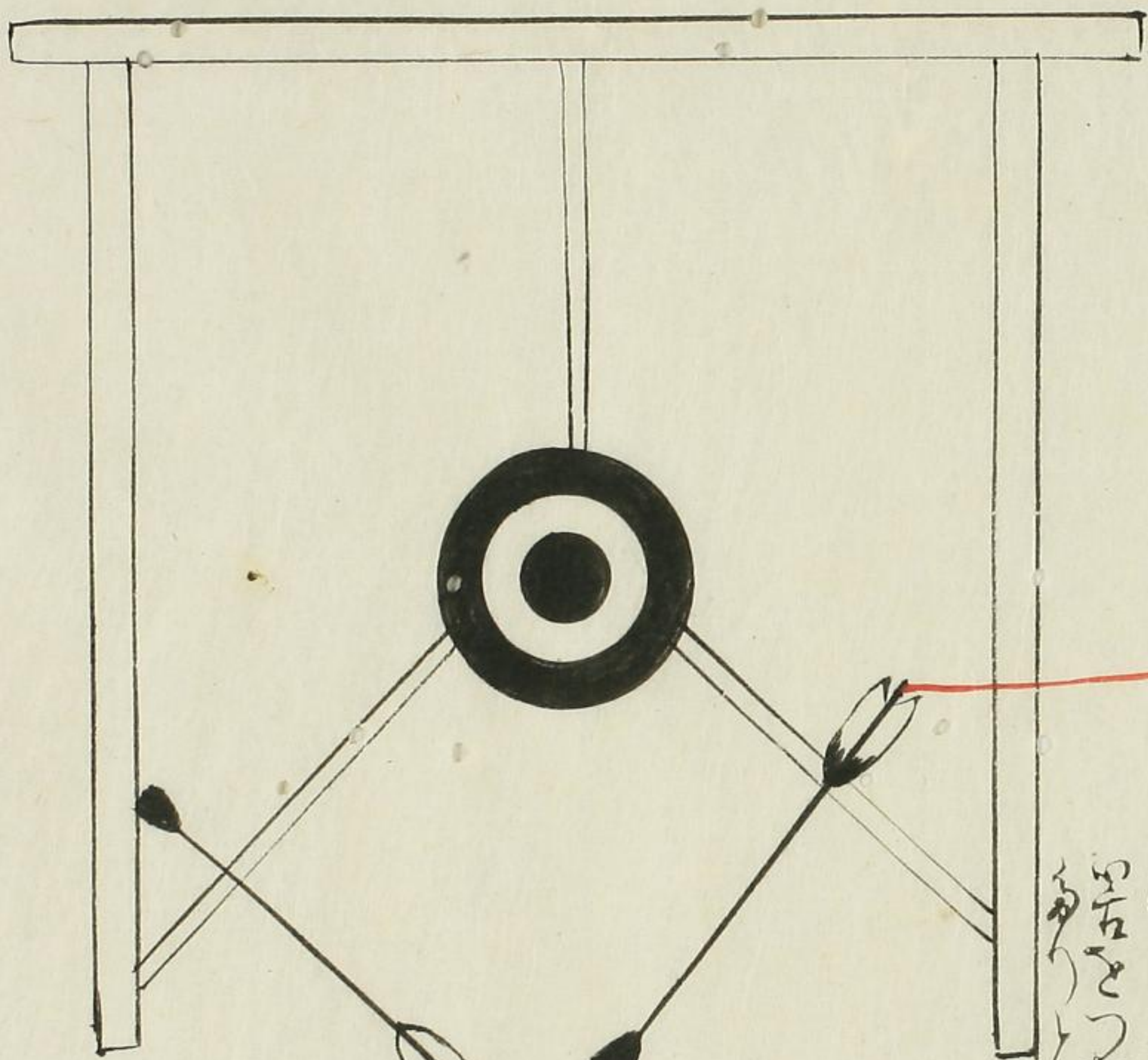




△夫の沙汰法圖

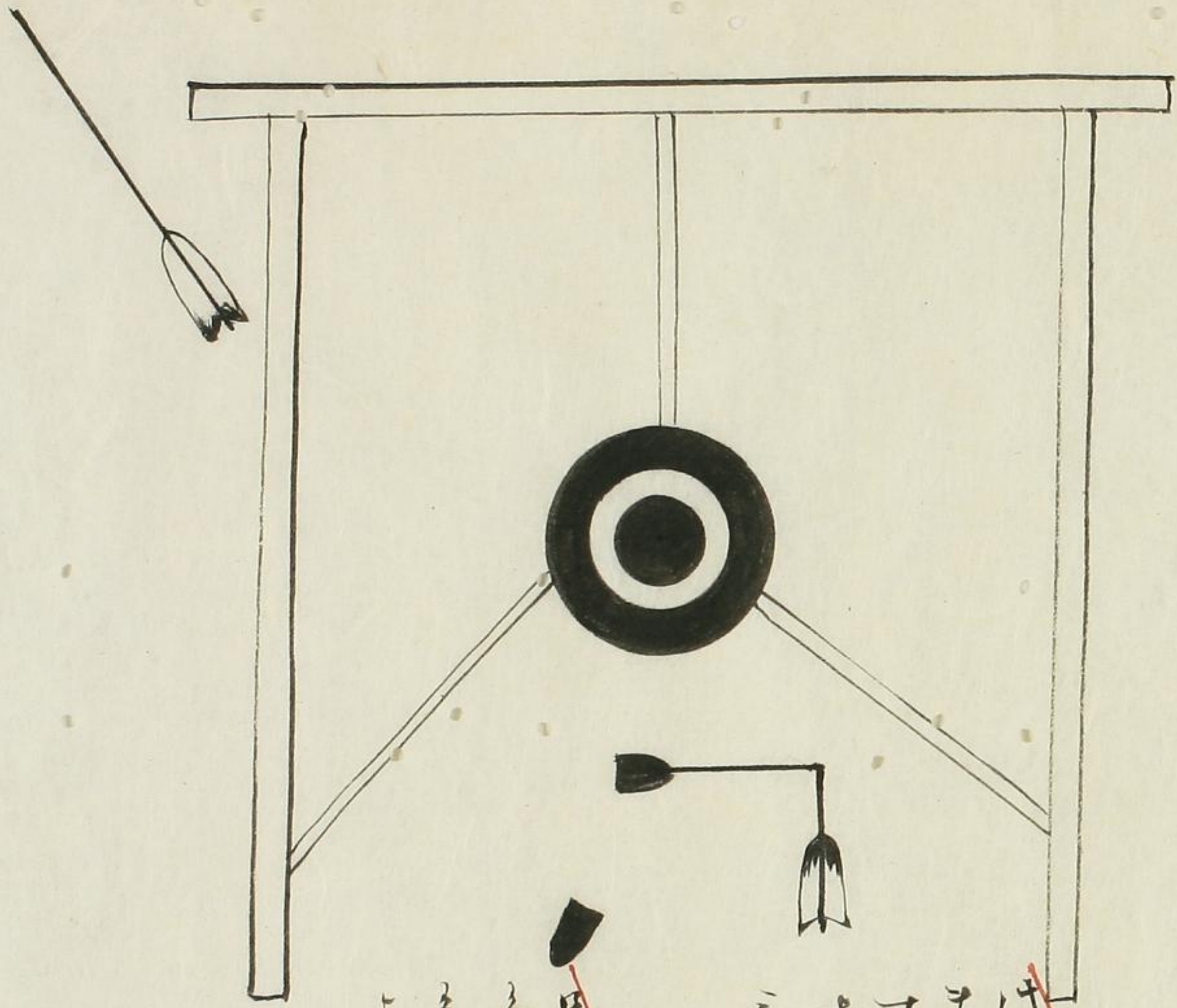


け夫は丸の下は横ぐ  
のやぶるさるるを  
串の廻りては  
能くくられ法を  
てさす

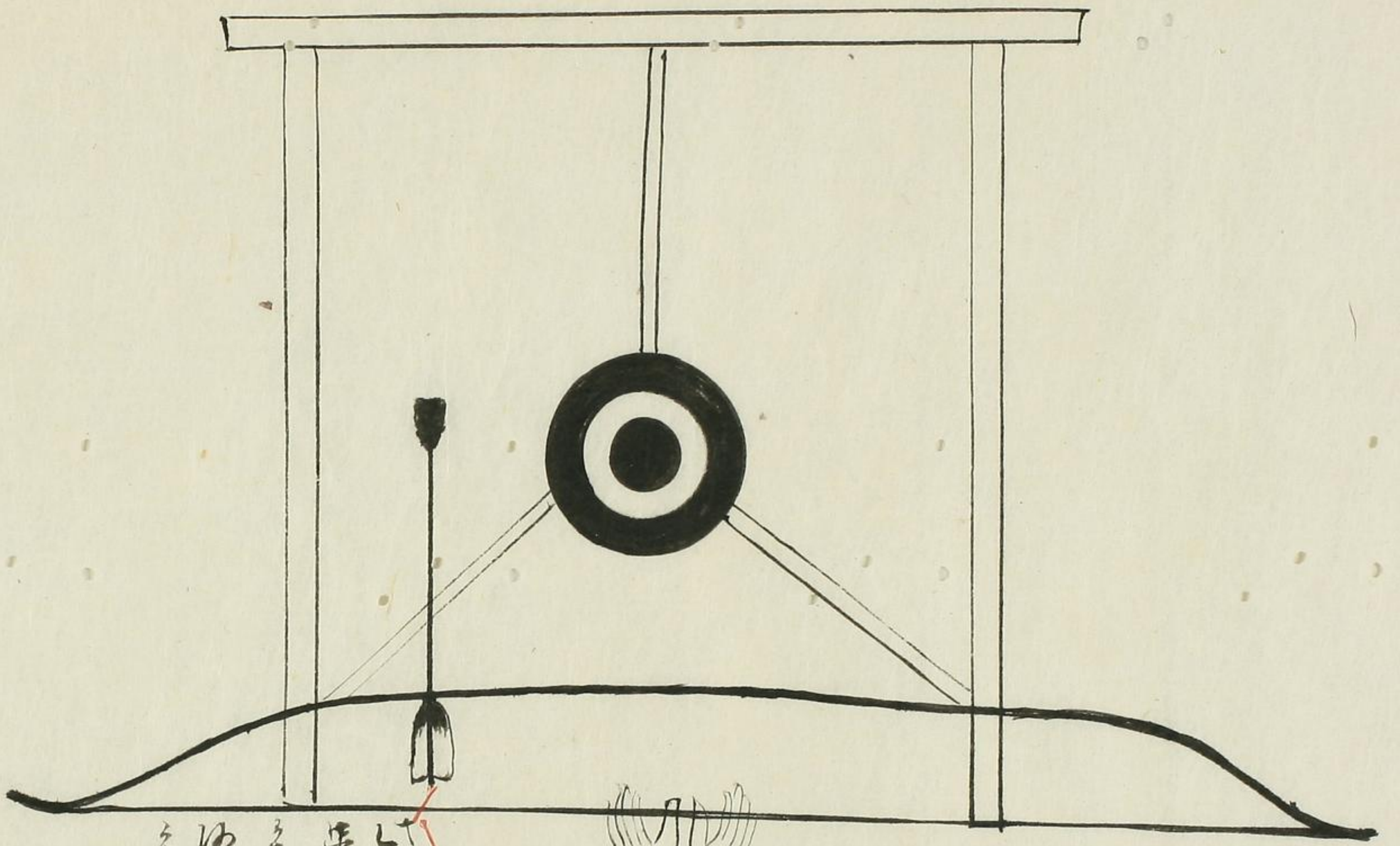


け夫は丸の下は横ぐ  
のやぶるさるるを  
串の廻りては  
能くくられ法を  
てさす

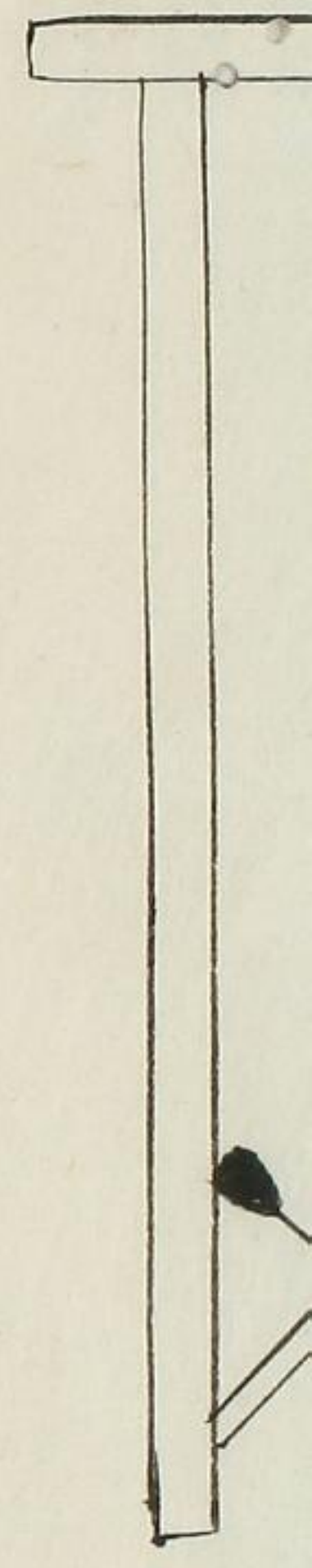
け夫は丸の下は横ぐ  
のやぶるさるるを  
串の廻りては  
能くくられ法を  
てさす



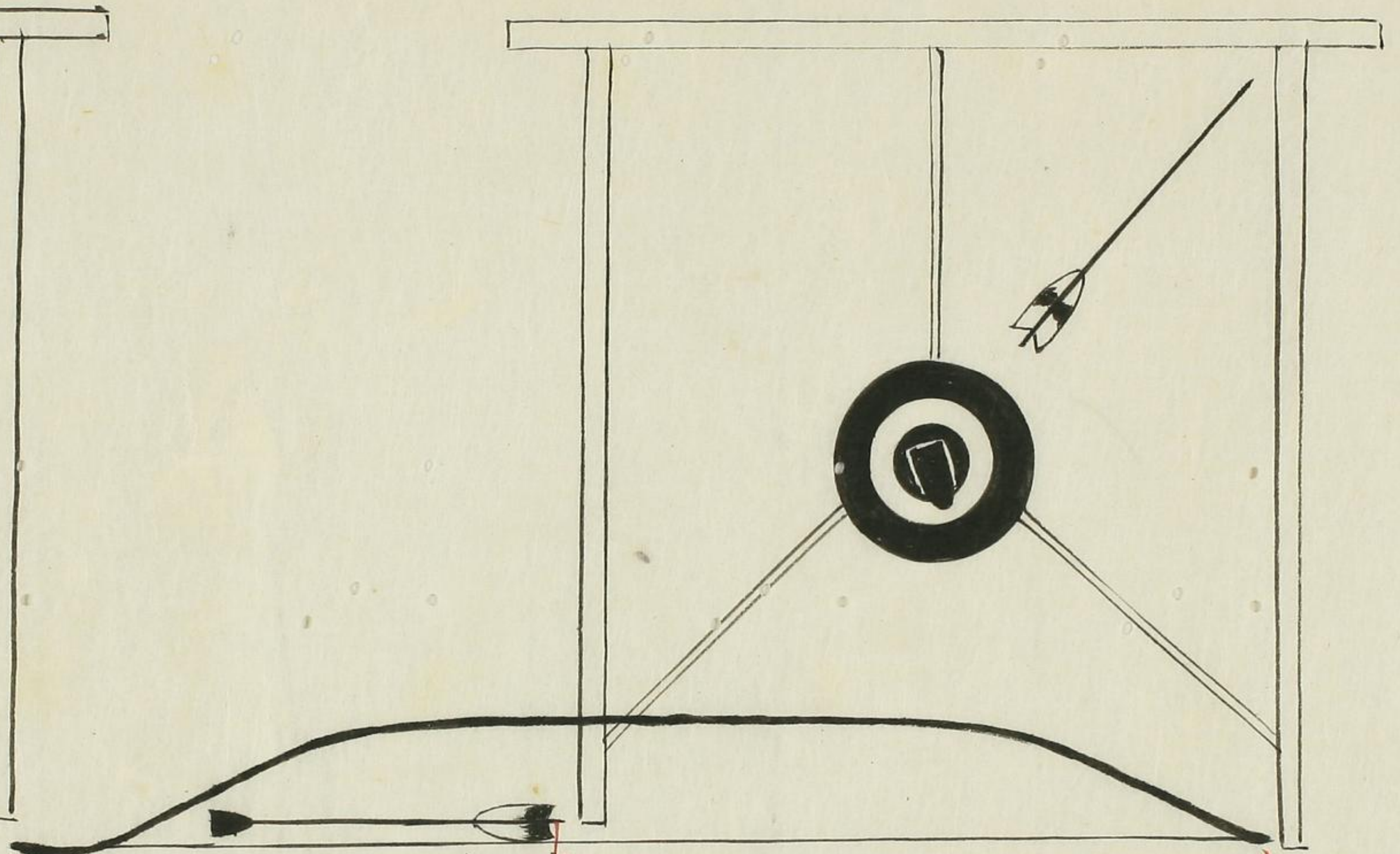
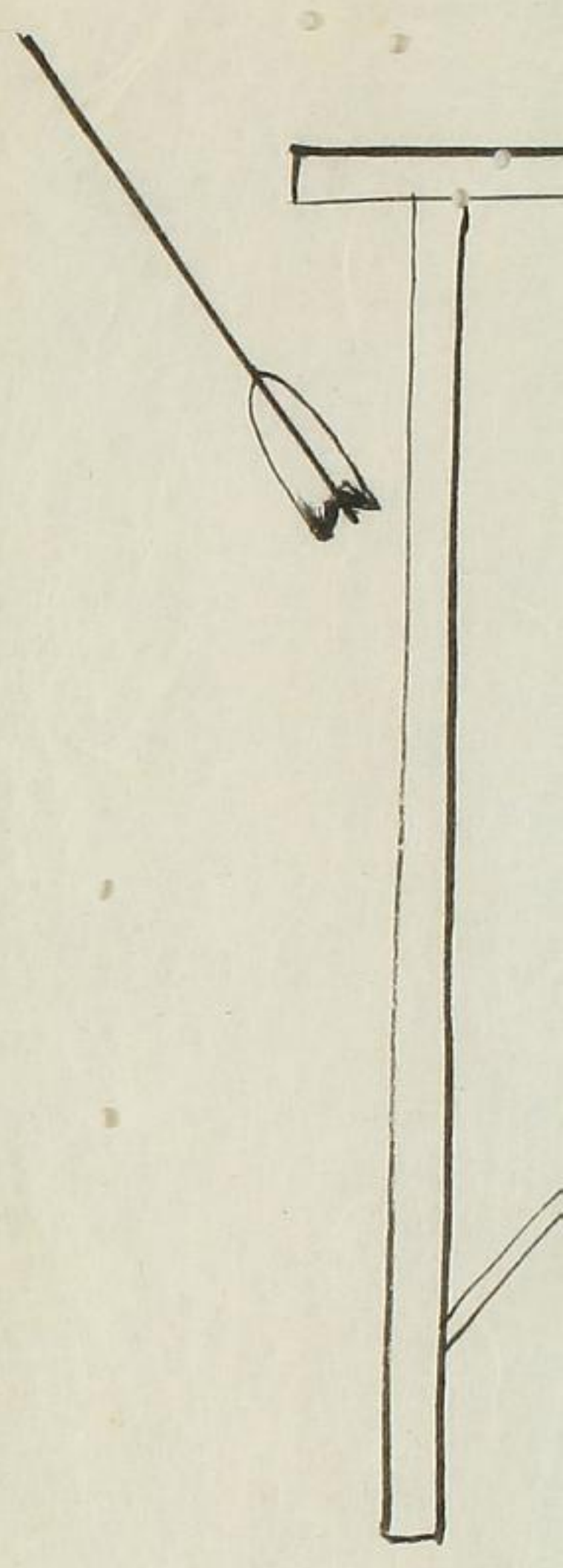
けいふおれて器の方事が  
 まつふおれりといふ夫の力  
 すゝまゝにさへおれん  
 方事が後よりさへおる  
 ことの御能事也  
 是の御能事也  
 夫の力よりさへおる  
 事の御能事也



けいふおれて器の方事が  
 まつふおれりといふ夫の力  
 すゝまゝにさへおれん  
 方事が後よりさへおる  
 ことの御能事也



夫の力よりさへおる  
 事の御能事也

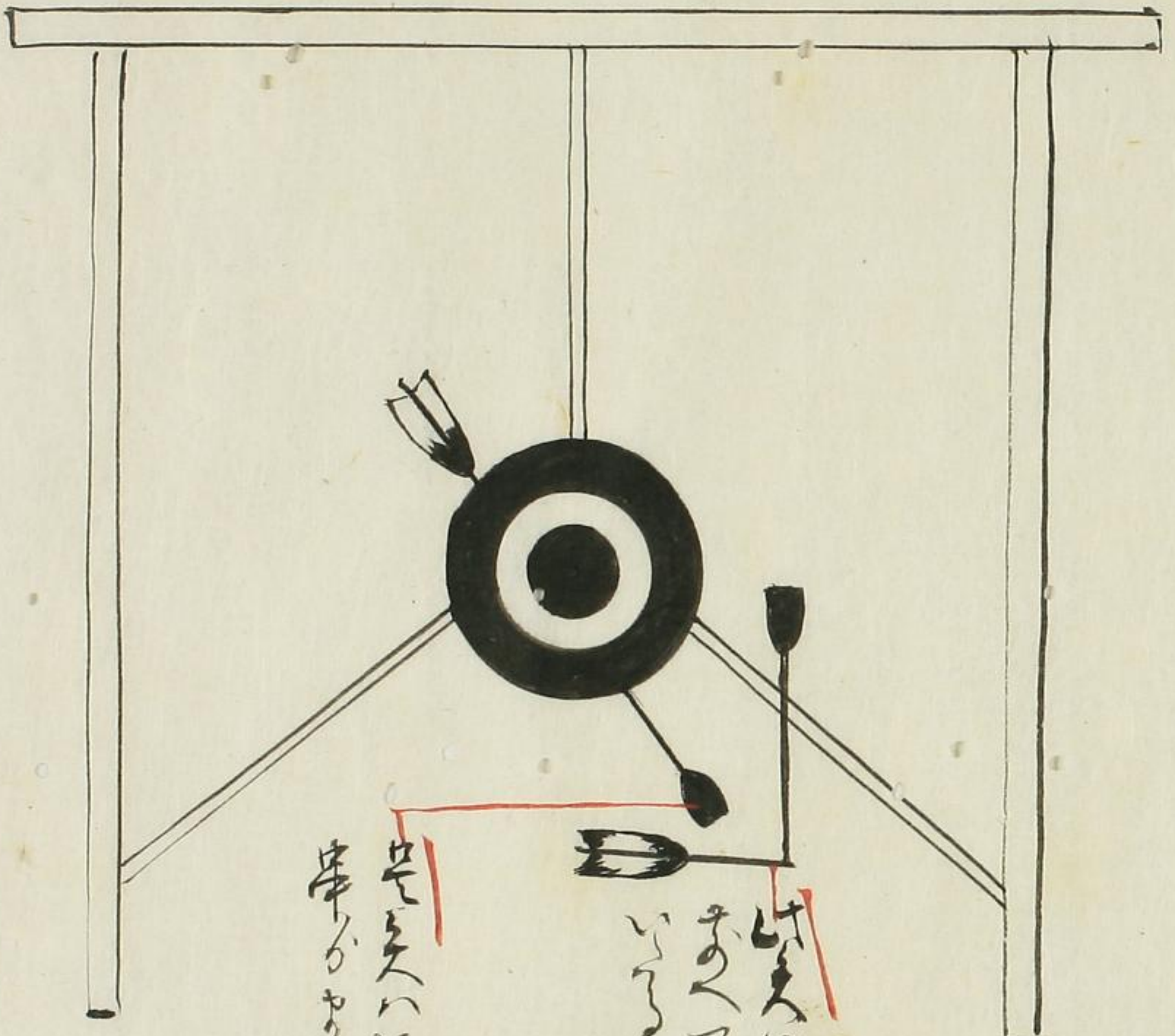


是の如くは矢のぬき  
 ぬきぬきぬきぬきぬき  
 ぬきぬきぬきぬきぬき

けしきの串の編串の  
 おぬきぬきぬきぬきぬき  
 ぬきぬきぬきぬきぬき  
 ぬきぬきぬきぬきぬき

けしきの串の編串の  
 おぬきぬきぬきぬきぬき  
 ぬきぬきぬきぬきぬき

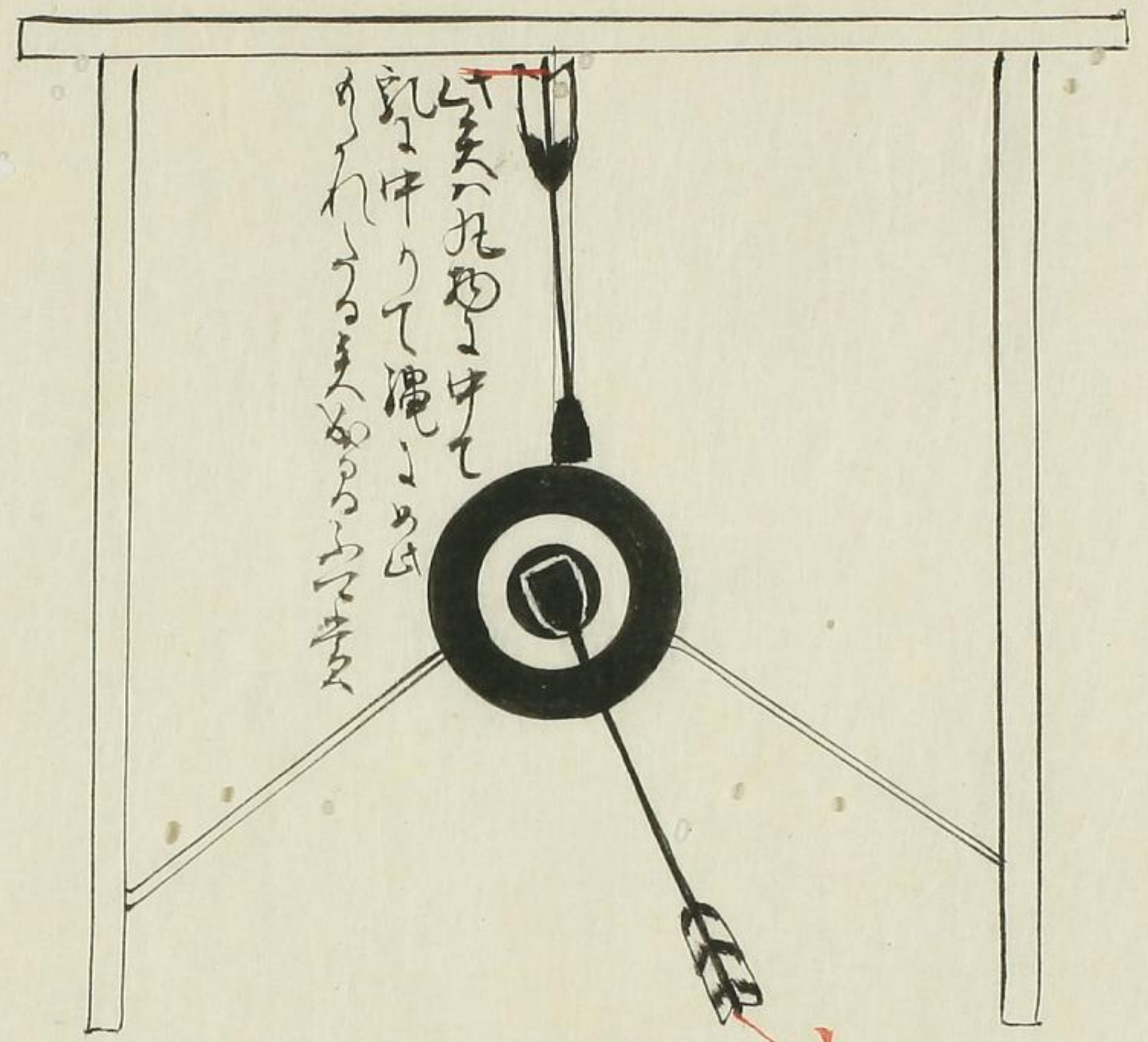
是の如くは矢のぬき  
 ぬきぬきぬきぬきぬき  
 ぬきぬきぬきぬきぬき



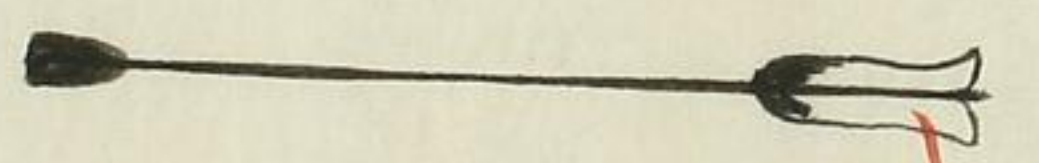
串がやうしての差をつつすの河きま



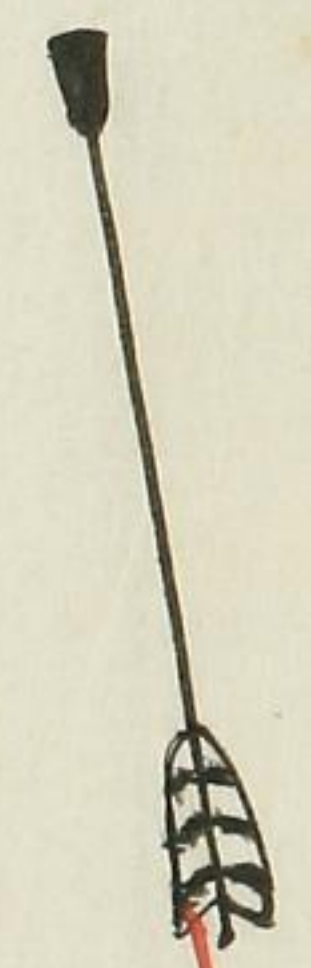
けまの丸の中へして置くは  
けまの丸の中へして置くは  
けまの丸の中へして置くは



けまの丸の中へして  
けまの丸の中へして  
けまの丸の中へして



けまの丸の中へして  
けまの丸の中へして  
けまの丸の中へして



けまの丸の中へして  
けまの丸の中へして  
けまの丸の中へして

けまの丸の中へして  
けまの丸の中へして  
けまの丸の中へして

けりも事の通し  
為事の通し  
あわうし  
ら居る  
河内

「夫と河内はさす討に法は後始のりた事と前  
かしてはさすいあひして法と事おあてはとふに  
はさす夫の事入と河内はさす」

「串のたむの揚一はさす夫試ら枚改ら枚はさす  
夫の河内大進の白あ一串の通りかたはさす  
法と後一はさす枚はさす河内はさす横念とつて  
但ら枚二枚あさささささ河内はさす可換し

おさす河内大進の白あ一はさす  
けり

「おさすの事あさす極極あさすの事あさす  
作はさすはさすはさすはさすはさすはさす  
ささすはさすはさすはさすはさすはさすはさす

「おさすはさすはさすはさすはさすはさすはさす  
はさすはさすはさすはさすはさすはさすはさす

右の物はさすはさすはさすはさすはさすはさすはさす  
はさすはさすはさすはさすはさすはさすはさすはさす



被誠置之也

弘治貳年

八月吉日

信豐

田

右此一券武田流圖物之法唯授一人雖為秘書無據節目依有之令相續之畢任先制之旨實子於無之者可有返進之者也仍如件

糟屋左近

武成

集

海野仁左衛門

景亮

田

久代藤其衛

信秀

田



無之者可有返進之者也仍如件

糟屋左近

武成

武成

海野仁左衛門

景亮

景亮

久代藤其衛

信秀

信秀

山村主鈴

喜時

喜時

多田靜覺

陽彦

陽彦

各和負右海殿

多田靜覺

陽亮為